

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	3 人	(3 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	5 人	(2 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	4 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	1 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	3 人	
合計	21 人	

2 教員の異動状況

- 峯田 周幸（教授）（H15.5.1～現職）
- 水田 邦博（准教授）（H15.11.1～19.3.31 助教授；19.4.1～現職）
- 細川 誠二（講師）（H16.4.1～19.3.31 助手；19.4.1～22.2.28 助教；22.3.1～現職；25.2.1～休職）
- 大和谷 崇（講師）（H16.3.1～19.3.31 助手；19.4.1～助教；25.3.1～現職）
- 三澤 清（講師）（H22.4.1～助教；25.3.1～現職）
- 岡村 純（助教）（H21.12.1～現職）
- 高橋 吾郎（助教）（H22.10.1～現職）
- 杉山 健一（助教）（H23.1.1～現職）
- 望月 大極（助教）（H24.1.1～現職；25.4.1～休職）
- 瀧澤 義徳（助教）（H25.4.1～現職）
- 石川 竜司（診療助教）（H25.3.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	31 編	(19 編)

そのインパクトファクターの合計	21.28	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	4 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	1.33	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Mizuta K, Takizawa Y, Sugiyama K, Hosokawa S, Nakanishi H, Arai M, Adachi M, Mineta H: Ultrastructural localization of the G-protein Gs in the dark cells of rat vestibular organs. *Practica Oto-rhino-laryngologica Suppl.*136: 58-61, 2013.
2. Yamatodani T, Mizuta K, Hosokawa K, Takizawa Y, Sugiyama K, Nakanishi H, Mineta H: Congenital middle ear cholesteatoma: experience from 26 surgical cases. *Ann Otol Rhinol Laryngol* 122 (5): 316-321, 2013. [1.048]
3. Takizawa Y, Mizuta K, Hamada N, Yamatodani T, Nakanishi H, Hosokawa K, Takahashi G, Sugiyama K, Mineta H: Relationship between tympanic membrane retraction and habitual sniffing in patients with cholesteatoma. *Acta Otolaryngol* 133(10): 1030-1034, 2013. [1.084]
4. Misawa K, Kanazawa T, Misawa Y, Uehara T, Imai A, Takahashi G, Takebayashi S, Cole A, Carey TE, Mineta H: Galanin has tumor suppressor activity and is frequently inactivated by aberrant promoter methylation in head and neck cancer. *Transl Oncol* 6(3): 338-46, 2013. [2.943]
5. Misawa Y, Misawa K, Kanazawa T, Uehara T, Endo S, Mochizuki D, Yamatodani T, Carey TE, Mineta H : Tumor suppressor activity and inactivation of galanin receptor type 2 by aberrant promoter methylation in head and neck cancer. *Cancer* 120(2):205-213, 2014. [5.201]
6. Misawa K, Kanazawa T, Imai A, Endo S, Mochizuki D, Fukushima H, Misawa Y, Mineta H : Prognostic value of Type XXII and XXIV collagen mRNA expression in head and neck cancer patients. *Molecular and Clinical Oncology*. 2 (2) :285-291, 2014.
7. Wu YY, Hirano T, Yamamoto J, Huang GW, Yamamoto S, Kohno E, Watanabe T, Misawa K, Mineta H: The measurement of singlet oxygen production in an experiment tongue cancer model as an indicator for an Photodynamic therapy. *Pract. Otol. (Kyoto) Suppl* 136: 62-69, 2013.
8. 杉山健一、望月大極、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、細川誠二、峯田周幸: 当科における喉頭癌症例の検討. *耳鼻臨床 補* 136: 1-4, 2013.

9. 高橋吾郎、望月大極、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、三澤清、大和谷崇、細川誠二、峯田周幸: 当院における上顎洞扁平上皮癌に対する超選択的シスプラチン動注科学放射線療法に関する検討. 耳鼻臨床 補 136: 5-11, 2013.
10. 伴昭宏、遠藤志織、望月大極、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、細川誠二、水田邦博、峯田周幸: 当科における上咽頭癌症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 12-17, 2013.
11. 三澤清、遠藤志織、望月大極、伴昭宏、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、大和谷崇、細川誠二、峯田周幸: 浜松医科大学における中咽頭癌の臨床検討. 耳鼻臨床 補 136: 18-20, 2013.
12. 望月大極、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、細川誠二、峯田周幸: 当科における下咽頭癌症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 21-26, 2013.
13. 瀧澤義徳、草間由紀子、望月大極、杉山健一、岡村純、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、細川誠二、峯田周幸: 当科における口腔癌症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 27-31, 2013.
14. 細川誠二、望月大極、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、峯田周幸: 当科における耳下腺癌症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 32-35, 2013.
15. 遠藤志織、望月大極、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、細川誠二、峯田周幸: 当科における甲状腺癌症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 36-39, 2013.
16. 細川久美子、中西啓、瀧澤義徳、大和谷崇、細川誠二、水田邦博、岩崎聡、峯田周幸: 当科における人工内耳手術症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 45-48, 2013.
17. 水田邦博、濱田登、渡邊高広、大蝶修司、大川靖弘、新木五月、峯田周幸: 先天性に鼓膜に存在した真珠腫の3例. 耳鼻臨床 補 136: 49-52, 2013.
18. 水田邦博、星野知之、森田浩史、野澤理、宮下弘、橋本泰幸、峯田周幸: コルチ器神経走行の走査電顕による観察. 耳鼻臨床 補 136.: 53-57, 2013.
19. 石川 竜司、佐々木 豊、竹山 昌孝、釣田 美奈子、杉山 健一、中安 一孝: 当科における副鼻腔真菌症手術症例の検討. 耳鼻臨床 補 136: 85-88, 2013.
20. 三澤由幾、加藤照幸、荒井真木、三澤清、細川誠二、植田洋、大川靖弘、峯田周幸: 頸部転移により血清NSE値が上昇した嗅神経芽細胞腫例. 耳鼻臨床 補 136: 89-94, 2013.
21. 大和谷崇、水田邦博、中西啓、杉山健一、瀧澤義徳、細川久美子、峯田周幸: 聴器カルチノイド例. 耳鼻臨床 補 136: 99-103, 2013.
22. 中安 一孝、佐々木 豊、竹山 昌孝、石川 竜司: 乳突洞に進展した耳前部瘻孔による難治性中耳炎例. 耳鼻臨床 補 136: 104-107, 2013.

23. 影山桃子, 瀧澤義徳, 杉山健一, 高橋吾郎, 三澤清, 大和谷崇, 細川誠二, 峯田周幸: 下降性壊死性縦隔炎例. 耳鼻臨床 106(2): 167-171, 2013.
24. 瀧澤義徳, 美津島隆, 峯田周幸: QOL 向上を目指して 頸部郭清術後の頸部・上肢機能リハビリテーション. JOHNS 29(6):1046-1050, 2013.
25. 高橋 吾郎, 水田 邦博, 峯田 周幸: 鼓膜切開に関するエビデンス: JOHNS 30(1): 59-64, 2014.
26. 杉山健一, 峯田周幸: <急患・急変対応マニュアル そのとき必要な処置と処方>術中・術後の急変への対応 術後編 術後せん妄.耳鼻咽喉科・頭頸部外科 増刊号 85(5): 378-381, 2013.
インパクトファクターの小計 [10.276]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ahmed S, Vorasubin N, Lopez IA, Hosokawa S, Ishiyama G, Ishiyama A: The Expression of Glutamate Aspartate Transporter (GLAST) in Different Regions of the Human Cochlea and their Relative Distributions in Various Patient Populations. Brain Res 1529; 134-142, 2013. [2.879]
2. Morioka T, Ohba K, Morita H, Takahashi G, Uchida H, Matsushita A, Sasaki S, Oki Y, Suda T, Kakudo K, Yoshino A: Non-islet cell tumor-induced hypoglycemia associated with macronodular pulmonary metastases from poorly differentiated thyroid carcinoma. Thyroid 24(2): 395-9, 2014. [3.544]
3. Kanazawa T, Fukushima N, Imayoshi S, Nagatomo T, Kawada K, Nishino H, Misawa K, Ichimura K : Rare case of malignant transformation of recurrent respiratory papillomatosis associated with human papillomavirus type 6 infection and p53 overexpression. SpringerPlus 2: 153, 2013.
4. Kanazawa T, Watanebe Y, Komazawa D, Indo K, Misawa K, Nagatomo T, Himada M, Iino Y, Ichimura K : Learning Curve and Phonological Outcome of Laryngeal Framework Surgery by Different Anesthesia: a single-surgeon experience. Acta Oto-Laryngologica 132(2):193-200, 2014. [1.106]
5. Uehara T, Kanazawa T, Mizukami H, Uchibori R, Tsukahara T, Urabe M, Kume A, Misawa K, Carey TE, Suzuki M, Ichimura K, Ozawa K : Novel anti-tumor mechanism of galanin receptor type 2 in head and neck squamous cell carcinoma cells. Cancer Science 105(1)72-80, 2014. [3.479]

インパクトファクターの小計 [11.008]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Hosokawa S, Okamura J, Takizawa Y, Mineta H: Long-term survival of a patient with primary small cell neuroendocrine carcinoma of the maxillary sinus: a case report. J Oral Maxillofac Surg 71(8): e248-e252, 2013.[1.333]
 2. 中西啓、細川久美子、瀧澤義徳、大和谷崇、水田邦博、峯田周幸：新規 PAX3 遺伝子変異にて発症したワールデンブルグ症候群タイプ 1 例. 耳鼻臨床 補 136: 75-79, 2013.
 3. 大和谷崇、森田浩太郎、望月大極、杉山健一、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、細川誠二、峯田周幸：音声再建を目的とした咽頭気管瘻の閉鎖を施行した 1 例. 頭頸部外科 23 (2): 219-224, 2013.
 4. 瀧澤義徳、峯田周幸：口蓋に瘻孔を生じたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患が疑われた 1 症例. JOHNS 30(3):389-392, 2014.
インパクトファクターの小計 [1.333]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 25 年度
(1) 文部科学省科学研究費	5 件 (550 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	18 件 (326 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 三澤 清(代表者) 基盤研究 C 頭頸部癌における癌幹細胞の役割と新規治療法の探索 90 万円 (継続)
2. 峯田周幸(代表者) 基盤研究 C 頭頸部癌におけるゲノム網羅的なエピジェネティック解析 90 万円 (継続) 三澤 清(分担者)30 万円
3. 遠藤志織(代表者) 若手研究 B 頭頸部癌における Digital PCR 装置を使ったメチル化解析法の確立 140 万円(新規)

4. 高橋吾郎(代表者) 基盤研究 C 頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究 110 万円(継続)
 5. 杉山健一(代表者) 若手研究 B 質量顕微鏡を応用した老人性難聴に対するレシチンの効果の研究 90 万円(新規)
- (2) 厚生労働科学研究費
 - (3) 他政府機関による研究助成
 - (4) 財団助成金
 - (5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	8 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	15 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Hosokawa S, Hosokawa K, Ivan A Lopez, Gail Ishiyama, Akira Ishiyama: Immunocytochemical localization of cubilin and megalin in the human inner ear. 37th ARO (Association for Research in Otolaryngology) MidWinter Meeting, San Diego, CA, USA. Feb 22-26, 2014.
2. Hosokawa K, Hosokawa S, Ivan A Lopez, Gail Ishiyama, Akira Ishiyama: Immunocytochemical expression of nuclear factor erythroid 2-related factor 2 (Nrf2) in the human inner ear and changes with age. 37th ARO (Association for Research in Otolaryngology) MidWinter Meeting, San Diego, CA, USA. Feb 22-26, 2014.
3. Misawa K, Kanazawa T, Mineta H: Expression changes in BMI-1 and EZH2 are associated with DNA methylation changes in Head and Neck cancer. 20th IFOS World Congress, Seoul. June 1-5, 2013.

4. Takizawa Y, Mizuta K, Sugiyama K, Hayasaka T, Nakanishi H, Okamura J, Mineta H, Setou M: Phosphatidylcholine species localization in the mouse inner ear by mass microscopy. The 36th Annual mid-winter research meeting of the association for research of otolaryngology, Baltimore, MD, USA. Feb 16-20, 2013.

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名
 - 峯田周幸 第114回日本耳鼻咽喉科学会
 - 峯田周幸 第37回日本頭頸部癌学会
 - 峯田周幸 第75回日本耳鼻咽喉科臨床学会
 - 峯田周幸 第22回日本頭頸部外科学会
 - 峯田周幸 第61回中部地方部会連合会
 - 峯田周幸 第23回日本耳科学会
 - 水田邦博 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会
 - 水田邦博 第23回日本耳科学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会長
- 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会代議員
- 峯田周幸 日本頭頸部学癌学会代議員
- 峯田周幸 日本口腔咽頭学会評議員
- 峯田周幸 日本鼻科学会評議員
- 峯田周幸 日本喉頭科学会評議員
- 峯田周幸 日本頭頸部外科学会理事
- 峯田周幸 日本気管食道学会理事
- 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会評議員
- 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科感染症研究会評議員
- 峯田周幸 耳鼻咽喉科臨床学会評議員
- 峯田周幸 日本小児耳鼻咽喉科学会理事
- 水田邦博 日本耳鼻咽喉科学会代議員
- 水田邦博 日本耳科学会代議員
- 水田邦博 日本耳鼻咽喉科学会福祉医療・成人老年委員会委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	0件

- (1) 国内の英文雑誌等の編集
 - Auris Nasus Larynx (Editorial Board)
 - Japanese Journal of Clinical Oncology (Editorial Board)
- (2) 外国の学術雑誌の編集
- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー
 - 3回、 Auris Nasus Larynx (Japan)
 - 2回、 Japanese Journal of Clinical Oncology (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 頭頸部癌における DNA メチル解析

近年、DNA のメチル化を始めとするエピジェネティックな変化が、RNA 合成、ひいてはタンパク質の発現を抑制することから、癌化機構の一つとして認識されている。当教室では、手術検体からのサンプルを使用し癌抑制遺伝子の DNA メチル化解析を行っている。サンプル数は頭頸部扁平上皮癌としては有数のサンプル数を保有している。特に、Gananin、Tachykinin、Somatostatin などのニューロペプチド とそのレセプターのメチル化解析を行っており頭頸部癌における役割を解析検討している。また、次世代シーケンサーを使って頭頸部癌のエピジェネティックな変化の特徴を網羅的に調べている。トランスレーショナルリサーチとして、DNA メチル化マーカーによる予後解析を行っており手術治療患者の術後追加治療の必要性などを検討している。また、最近のトピックスである中咽頭癌のHPV感染が注目されている。生検材料を使用して HPV 関連の有無を迅速に確認し治療方針の参考にしている。

(峯田周幸、三澤 清、三澤由幾、近藤玄樹)

2. 質量顕微鏡による内耳の分析

前庭を質量顕微鏡により解析し日本耳鼻咽喉科学会で発表した。今後も継続しさまざまな病態での解析を行う。

(水田邦博、瀧澤義徳、杉山健一)

3.頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究

アウトカム・リサーチを行うために、包括的健康関連QOL評価指標としてSF-36v2を、疾患特異的QOL評価指標としてEORTC-QLQ-C30-j、HN35-jをタブレット端末で使用可能なアプリケーションのプロトタイプAおよびBを作成した。プロトタイプA・BともQOL調査票は、包括的健康関連QOL調査票としてSF-36 version 2、疾患特異的QOL調査票としてEORTC QLQ-C30 version 3とEORTC QLQ-H&N35から構成されている。プロトタイプAは、質問項目が1つずつ画面に現れ、項目に回答しなくても調査を終了することが可能であるよう作成された。プロトタイプBは、原本の紙面のQOL調査票そのままのデザインであり、すべての質問項目に回答しないと調査終了にならないよう作成された。タブレット端末を用いることで、指操作による文字の拡大・縮小が可能であり、回答項目に指でタッチすることで、回答にチェックが付く。患者がQOL調査を終了した後、タブレット端末はコンピュータに接続され、専用アプリによって管理される。なお、収集されたデータはCSV形式で抽出することが可能である。

(高橋吾郎)

- 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発
- 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性
- 15 新聞，雑誌等による報道